

周遊船や体験型で観光活性化

# 貞山運河 にぎわいを 名取などの民間業者ら団体設立

仙台湾岸を流れる貞山運河をまちづくりに生かそうと名取市と仙台市の水産、観光業者らが一般社団法人「貞山運河ネット」を6日設立した。約40法人と自然

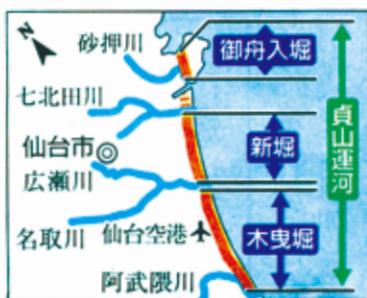


保護などに取り組み30人が参加し、民間の連携でにぎわいを生み出す。  
5月に周遊船が運航を予定するほか、周辺の若林区で今月21日に温泉やレストランの複合施設が開業するなど、運河を取りまく観光

設立総会では貞山運河の魅力を生かそうと誓った

の動きが活発化する。6日に名取市であった設立総会で、会長に就いた桜井広行（ひろゆき）が「伊達政宗が造った『木曳堀』などを地域ブランドにして誘客につなげたい」と語った。

ネットは名取市の小中学生に運河の特集冊子を配布し、まち歩きのエリアマツ



プを近く作成する。夏休みには木曳堀に丸太を浮かべてかつての輸送を再現する構想もある。

貞山運河は、木材輸送などを目的に江戸期と明治期にできた木曳堀、新城、御舟入堀の総称。全長31・5キロだったが、現在は一部が埋め立てられて26・5キロ。

東日本大震災の津波で被災した。